

希学園 第405回 小4公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第405回公開テスト 小4国語 解説動画(2026年2月8日実施)	https://vimeo.com/1162804411/4cb9bc1a2

1

「雪」の上の部分を「雨」のように書かないよう。また、うつかり「雷」などと間違えないようにしたい。
 「画」の横棒の数を間違えたり、「家」の「豕」の部分を書き間違えたりしないように気をつけよう。

「牛」を「午」と書かないように注意しよう。また、「肉」についても「内」と書かないようにした。

「新」を「親」としたり、「聞」を「問」や「間」としないように注意しよう。また、「耳」の横棒の字形にも注意しよう。

「飲」の左側を「食」と書かないように。細かな字形にも気を配つて覚えていこう。

「礼」を誤つて「札」と書かないよう気をつけよう。また、左側の字形にも注意。「しめすへん」を「ころもへん」にしてはいけない。

「花に風」 吉野万里子

※ 問題作成の都合上、一部表記を改めています。

◎の文の中に「夏帆が最近通い始めた」とあるところに注目する。文章後半の六年生同士のやりとりの中で、咲奈が「華道教室に最近来始めて」と夏帆について話している。委員会の最中に、夏帆が咲奈に対して「またおこられるかな」と心配していることも読み取りたい。

2 A「不正確」、B「無意味」、C「非常識」である。この他にも似たような組み立ての熟語は多く存在するので、この機会に調べてみよう。

3 委員会で何の話をしている場面なのかをふまえて考える。「今年はだれが美化月間のポスターを作るか」という議題が上がっている中で、夏帆が絵を描くことを得意としていることを知っている寺崎さんが「やりなよ」とすすめてくれているのである。

4 委員会には四年生、五年生、六年生が「テーブルごとに固まつてすわっている」とある。去年のポスターは「五年生と六年生が中心になつて」作成していたと書かれており、咲奈は夏帆やショージ、寺崎さんが話しているテーブルを見た後に「五年生のテーブル」に目を向けて呼びかけている。さらにその後の六年生たちのやりとりに対しても夏帆が「たくさん六年生がいるのはこわい」と考えていることから、夏帆は四年生であることがわかる。寺崎さんは「低学年のときと同じクラスで」とあるので四年生である。ここまでつかめれば十分解答できるだろう。

5 Xは「頭をかく」に対応したことばとして「ぱりぱりと」がはいる。Yは咲奈が四年生のテーブルを「見」る様子を表す「ちらつと」がはいる。Zは六年生たちにかけ口をたたかれていたことを知った夏帆の気持ちを「揚げたボテトを食べ過ぎたとき」にたとえた「むかつと」がはいる。

6 六年生たちの会話では、栄田せんぱいを筆頭に夏帆についての話を咲奈にふつていて。栄田せんぱいが、司会を務めていた咲奈に対して「四年生を手伝わせないのか」と質問し、咲奈はそれに対する返答の中で夏帆への不満を伝えている。その話の中で、咲奈が夏帆のことを個人的に知っているよなことを口走つたので、ここでだれかが「てか、(咲奈と夏帆は) 知り合い?」と質問しているのである。

7 直後に「逃げなきや」とあるが、この部分では設問の指定に合わない。なぜ「逃げなきや」と考えたのかについて説明されていいる部分をさがす。

8 IIの前後に対して、通読時に違和感を覚えることができていることが望ましい。直前では先生が「ええ・相談しましよう」と話しているのに、直後では「そう寺崎さんが言う」とある。ここに寺崎さんの発言である、「言うの: もらえなかつたね」がはいるのである。

9 アは「会議はつまらない: 外で活動したい」と考えながらも会議には参加しているので誤り。Yは咲奈が四年生のテーブルを「見」る様子を表す「ちらつと」がはいる。Zは六年生たちにかけ口をたたかれていたことを知った夏帆の気持ちを「揚げたボテトを食べ過ぎたとき」にたとえた「むかつと」がはいる。

10 一つ目は「視線」について、二つ目は「物の色」について、三つ目は「利き目」についてであった。通読時、段落の話題には常に注意しよう。

11 一は「動物には、白目がほとんどありません」の後に「人間だけは、大きな白目があります」という流れなので「ところが」がはいる。2は「狩り」をしていった「人の祖先」についての説明から「集団が大きくなるにつれて」視線の重要度が高まつてきることを説明する流れなので「さらに」がはいる。3は「物がはね返す光の色」の具体例として「木の葉・リングゴ」をあげているので、「たとえば」がはいる。なお、「ところで」は話題を切りかえるときに使う言葉である。

12 「声を出さずに」何を相手に送ることが「合図」となり、その結果「獲物にばれずに正確な位置が伝えられ」るのかを考える。「白目」によって「視線」が相手に送られ、その「視線」によつて集団内でのスマーズな意思疎通が可能となつたということを述べている段落である。

13 A「おそわれる」は「動物」が「敵」に視線を読まれてしまうどうなるか、と考えれば容易であろう。B「生きのびる」とは命を落とすことなく生きながらえること。C「さまざま」は種類が多く、それぞれがことなる状態、様子であること。D「サイン」とはこの場合親指と人差し指で輪をつくるハンドジェスチャーのことを指す。

14 線②のあとに、「一つは…」、「もう一つは…」と並べて説明されている。並列の目印には注意して読み進めていこう。

15 直後の「…少し遠くにある物を…」と並んで「…左右の目を交互に閉じるだけ」というのは「利き目」を知るための手順である。「手の位置がずれなかつたほうの目」をよく使つてるのである。

I 視線を読まれないように、白目がほとんどないのは人間ではなく動物と述べられているので誤りである。

II 「太陽光があれば」という条件は本文中には書かれていないので誤りである。

III 「少し遠くにある物を見ながら、それを囲むように指で…あとは左右の目を交互に閉じるだけ」であるので、單純に「上以左の目を閉じるだけ」では利き目の判別はできないので正しい。